



東京富士大学では専門ゼミ個々の特性を生かし、地域社会や企業に対するユニークな企画提案を行なってきました。今回は、高田馬場地区を観光地化するツープランを立案した山川悟ゼミナール(マーケティング専攻)を紹介いたします。

### ■高田馬場ツアー企画を通じて学ぶプランニング実務

山川ゼミでは今年度、インドネシア、ミャンマー、中国東北部、ベトナム、韓国、台湾、シンガポール、タイからの観光客を高田馬場に誘致するための「体験型ツアー」を考案し、8チーム・コンペ型の学内プレゼンテーションを実施しました。

本学の立地する新宿区高田馬場には、外国人に喜んでもらえるような伝統文化、アニメ、ゲーム、飲食店など、様々な観光素材がたくさん存在します。ゼミ生たちは、対象国の特徴や来日旅行ニーズをデータから分析し、具体的な観光客像を思い描きながら次々とアイデアを出していきました。また、企画グループ毎に高田馬場ミニツアーを敢行、対象とする各国のランチを食べつつ、有力スポットの写真撮影なども試みました。留学生を交えた議論も、大いに参考になったようです。

その結果、「遊戯王・卓球・カタンなどのゲームを体験できる旅」(ベトナム人向け)、「寺院と和風文化に触れる旅」(ミャンマー人向け)、「1日で大和撫子になれる旅」(シンガポール人向け)、「馬場で学生体験のできる旅」(インドネシア人向け)など、ユニークな8企画が誕生しました。プレゼン当日は地元企業の方も臨席し、優秀企画への表彰、懇親会も実施されました。こうしたゼミでの活動が、産学・地域交流にも発展しています。

### ■ゼミを通じて学生に伝えたいこと

山川悟教授は、広告会社時代に数多くの広告キャンペーンや商品企画などを手掛けてきました。企画書の作り方に関する書籍も著しています。山川教授は、他者から与えられたモノを楽しむだけの姿勢から、自ら考えたことで他者を楽しませる姿勢に転換して欲しい、と指摘します。

これまで山川ゼミでは、学生の発案でCM制作、商品企画、ビジネスモデル開発などを行っており、楽しいながらも実務的な緊張感溢れる学びが展開されています。

### ■就職率は96%、年々上昇傾向に！

「実務IQを育てる」という教育目標のもと、本学にはビジネスに直結する授業科目や、「キャリアデザイン」「就職特講」「日経MJ講座」など、就職を支援する科目が多数設定されているところに特徴があります。また、企業実習であるインターシップの単位認定や、販売士、簿記技能、ビジネス実務法務等の資格が取れる短期集中科目、専門ゼミでも高田馬場近辺の有力企業にインタビューを行なう「GMT企業訪問」などのプログラムがあり、日々の学びが進路決定や社会との交流につながるようなシステムを採っています。詳しくは本学のウェブサイトの「就職・キャリア」ページをご覧ください(<http://www.fuji.ac.jp/career/news/>)。

毎年、就職率は右肩上がりの傾向を示しており、平成27年度卒業生では95.6%(日本人男子は100%)を達成しました。キャリア開発センター(進路支援部門)では、3年生全員の進路面談や、履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接などを行っており、文字通りマンツーマンの指導を受けることができます。学生数の少ないコンパクトな大学だからこそ実現できる個別支援体制と言えるでしょう。

### ■仲間と楽しく進める就職活動

企業の採用は長期厳選型となってきています。就職活動は孤独で苦しいイメージがあるとともに、どこから着手していいかわからない不安もあります。そこで本学では、就活を楽しく取り組めるプログラムとして、さまざまな「就職活動支援ゲーム」を開発し、授業で導入を始めています。

「鬼面接官から採用を勝ち取れ!ゲーム」は、面接で緊張してしまう、という人向けに開発されました。まず、学生6人が「就活生」組と「面接官」組に分かれます。就活生は事前に企業研究をして面接に臨みますが、面接官から出てくる質問はどれも期待を裏切る変化球ばかり…。最後に、合否判定とともに質問の意図が明かされ、「そうか、企業の人事はこんなところを見ているのか!」と気づく仕掛けになっています。

なおキャリア開発センターは、テレビや雑誌、ソファ、自販機等が配置された「就活サロン」としてオープン。本学にはこうして、気軽に楽しく就職相談できる雰囲気が漂っています。